

- 問1 日本の諸地域の統計において、人口は約137万人（2016年時点）で、海岸線の延長が4000kmを超えるという際立った特徴を持つ長崎県について、海岸線がこれほどまでに長くなっている地理的な理由として最も適切なものはどれですか。（2020年 埼玉県公立入試 類似）
1. 対馬や五島列島など数多くの島々を抱え、入り江の入り組んだ複雑な海岸線を持つため
  2. 大規模な干拓事業が繰り返された結果、人工的な海岸線が大幅に増設されたため
  3. 九州地方で最大の面積を持ち、東側と西側の両方が外海に広く面しているため
  4. 火山活動による溶岩の流出によって、平坦で直線的な海岸線が延々と形成されたため
- 問2 九州地方南部の鹿児島県から宮崎県にかけて広がる、過去の火山の巨大噴火による噴出物（火山灰など）が厚く積み重なってできた広大な台地を何と呼びますか。（2023年 沖縄公立入試 類似）
1. シラス台地
  2. カルデラ
  3. 扇状地
  4. 干拓地
- 問3 九州南部の広範囲に見られる「シラス台地」の土壌の成り立ちと性質について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2017年 沖縄公立入試 類似）
1. 火山の噴出物が積み重なって形成されており、水はけが非常に良い。
  2. 河川が運んできた土砂が堆積してきており、水分を蓄える力が強い。
  3. 大昔の貝殻やサンゴが積み重なってきており、アルカリ性が強い。
  4. 植物の遺骸が分解されずに堆積した泥炭地であり、湿気が多い。
- 問4 九州地方の北部に位置し、福岡県と佐賀県にまたがって広がる、日本を代表する稲作地帯として知られる平野はどれか。（2023年 青森県公立入試 類似）
1. 筑紫平野
  2. 熊本平野
  3. 宮崎平野
  4. 十勝平野
- 問5 九州南部の鹿児島県などに広がる火山灰層からなる台地において、古くから水田稲作があまり行われず、サツマイモや飼料用トウモロコシなどの畑作、および畜産業が発展した理由として、土壌の性質の観点から最も適切な説明を選びなさい。（2018年 岩手県公立入試 類似）
1. 土壌の浸透性が非常に高く、水田に必要な水を地表に保持しておくことが困難であるため。
  2. 土壌に塩分が多く含まれており、稲の成長を妨げる性質を持っているため。
  3. 土壌が非常に硬い岩盤状になっており、農作物の根が深く張ることができないため。
  4. 火山灰に含まれる栄養分が多すぎるため、稲が成長しすぎて倒伏してしまうため。
- 問6 佐賀平野などの農業で見られる、同じ耕地を利用して4月から6月にかけては麦を栽培し、その収穫が終わった後の夏から秋にかけて米を栽培するという、1年間に2種類の異なる農作物を育てる方法を何と称しますか。（2019年 山形県公立入試 類似）
1. 二毛作
  2. 二期作
  3. 単作
  4. 促成栽培
- 問7 農産物の生産統計において、サトウキビの生産量や、マンゴー、菊（電照菊）の出荷量が全国トップクラスである都道府県はどこか、名称を答えなさい。（2014年 沖縄公立入試 類似）
1. 沖縄県
  2. 宮崎県
  3. 鹿児島県
  4. 高知県
- 問8 千葉県、北海道、大阪府、沖縄県の4つの地域の航空貨物輸送量を比較した統計において、国内線の輸送量に比べて国際線の輸送量の割合が非常に高く、東アジアの主要都市を結ぶ中継拠点（ハブ）としての役割を果たしている都道府県はどこか、次の中から選びなさい。（2024年 栃木公立入試 類似）
1. 北海道
  2. 千葉県
  3. 大阪府
  4. 沖縄県
- 問9 多数の半島や島々を含み、海岸線が複雑に入り組んでいる長崎県の地形的・気候的背景と、それに基づいた農業の仕組みについて説明したものととして正しいものはどれですか。（2018年 東京都公立入試 類似）
1. 平野部が少なく険しい地形が多いが、温暖な気候を活かして、火山の裾野や傾斜地であればいしよや果樹の栽培が行われている。
  2. 広大な平野と火山の火山灰土を活かし、機械化された大規模な農地で小麦や大豆の生産が中心となっている。
  3. 複雑な海岸線により冬の冷え込みが厳しいため、ビニールハウスを用いた促成栽培による野菜出荷が平野部で展開されている。
  4. 火山の影響で水はけが良すぎるため、稲作はほとんど行われず、砂丘地での乾燥に強い作物の栽培が主となっている。
- 問10 日本の各県の農業産出額を比較した際、沖縄県には他県と異なる際立った特徴が見られます。その内容と背景について正しく説明しているものはどれですか。（2017年 愛知県公立入試 類似）
1. 平坦な土地と豊富な水資源を活かし、稲（米）の産出額が全体の半分以上を占めている。
  2. 大消費地に近い立地を活かして、キャベツやレタスなどの近郊農業による野菜の産出額が最も多い。
  3. 温暖な気候を活かしたさとうきびなどの工芸作物の栽培が盛んで、その産出額の割合が約40パーセントと非常に高い。
  4. シラス台地の特性を活かし、広大な土地で茶の生産や肉用牛の飼育が農業の中心となっている。
- 問11 九州地方の火山に関連する地理的事象とその影響について、背景や理由を含めた記述として最も適切なものはどれですか。（2018年 千葉県公立入試 類似）
1. 火山地帯では地下深くに高温の蒸気や熱水が存在するため、これを取り出してタービンを回す発電方式が、再生可能エネルギーの一つとして活用されている。
  2. 活火山周辺では噴火による降灰被害を防ぐため、広大なカルデラ内は居住や農業が厳しく制限され、主に無人の発電施設のみが設置されている。
  3. シラス台地は養分を豊富に含んだ火山灰で構成されているため、肥料を与えずとも高い収穫量が得られることから、九州最大の野菜供給地となっている。
  4. 火山地帯は地盤が非常に強固であるため、大規模な工業団地や製鉄所の建設に適しており、北九州工業地帯の発展を支える要因となった。
- 問12 鹿児島県に広く分布する「シラス台地」の土壌の性質として、現地の農業に最も大きな影響を与えている特徴はどれですか。（2024年 山形公立入試 類似）
1. 非常に水はけが良く、地表に水が溜まりにくい
  2. 川が運んだ土砂でできており、水を通しにくい
  3. 粘土質で栄養分が豊富であり、稲作に非常に適している
  4. サンゴ礁が隆起してできたため、アルカリ性が非常に強い
- 問13 九州地方の中央部に位置する熊本県には、阿蘇くじゅう国立公園に指定されている地域があります。この地域にある阿蘇山に見られる、火山の噴火によって形成された世界最大級の大きなくぼ地を何と呼びますか。（2025年 東京都公立入試 類似）
1. カルデラ
  2. シラス台地
  3. 三角州
  4. 盆地

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 対馬や五島列島など数多くの島々を抱え、入り江の入り組んだ複雑な海岸線を持つため	長崎県は離島の数が日本一多く、県全体の面積は全国で37位程度と決して大きくありませんが、五島列島、対馬、壱岐などの島嶼部や、リアス海岸をはじめとする複雑な地形を含んでいるため、海岸線の総延長は北海道に次ぐ全国2位となっています。統計資料において、面積が同程度の他県に比べて海岸線が圧倒的に長い数値を示している場合は、この地理的特色を判断材料とします。
問2	答え 1 シラス台地	鹿児島県周辺には、火山の噴出物である火山灰や軽石などが堆積してできた大規模な台地が存在します。この地形は水はけが非常に良いという特徴があり、かつては水不足に悩まされることもありましたが、現在ではその特性を活かした畑作や畜産が盛んに行われています。
問3	答え 1 火山の噴出物が積み重なって形成されており、水はけが非常に良い。	シラス台地は、主に過去の巨大噴火による火砕流などの火山噴出物（火山灰や軽石など）が厚く積み重なって形成されました。土壌の粒が粗いため、水が地中にしみ込みやすく「水はけが良い」という特徴を持っています。この性質は、水田稲作よりも畑作に適した環境を生み出しました。
問4	答え 1 筑紫平野	筑紫平野は、九州最大の河川である筑後川の下流に広がる平野です。クレーク（水路）が発達し、古くから稲作が盛んに行われています。選択肢の熊本平野は九州中部、宮崎平野は九州南東部に位置します。
問5	答え 1 土壌の浸透性が非常に高く、水田に必要な水を地表に保持しておくことが困難であるため。	シラス台地を構成する火山灰や軽石の層は、隙間が多くて水を通しやすい（水はけが良い）という特徴があります。この性質は、常に水を張っておく必要がある水田（稲作）には不利に働きます。そのため、水分が少なくても育つ作物や、広大な土地を利用した畜産業がこの地域の主な産業となりました。近年では、灌漑施設の整備により、一部で野菜栽培なども行われています。
問6	答え 1 二毛作	1年間のうちに同じ耕地で2種類の異なる作物を育てる方法を二毛作と呼びます。これに対し、同じ耕地で1年間に2回同じ作物（主に米）を栽培する方法は「二期作」と呼ばれます。佐賀平野では、水はけを改良する技術や気候条件を活かし、古くから米と麦の二毛作が盛んに行われてきました。
問7	答え 1 沖縄県	亜熱帯特有の温暖な気候を活かした農業が盛んであり、サトウキビのほか、冬の夜間に電灯を照らして開花時期を調整する「電照菊」や、熱帯の果実であるマンゴーなどの栽培が特徴的です。宮崎県もマンゴーの生産で知られますが、サトウキビの生産量で比較すると、南西諸島に位置するこの都道府県が際立って高い数値を示します。
問8	答え 4 沖縄県	沖縄県にある那覇空港は、東アジアの主要都市のほぼ中心に位置するという地理的な優位性を持っています。この利点を生かし、24時間運用が可能な国際的な航空貨物輸送の拠点（貨物ハブ）として整備されており、海外からの貨物を一度集めてから各地へ配送する仕組みが構築されています。そのため、他の都道府県と比較しても国際線貨物の重要性が非常に高いのが特徴です。
問9	答え 1 平野部が少なく険しい地形が多いが、温暖な気候を活かして、火山の裾野や傾斜地でばれいしょや果樹の栽培が行われている。	長崎県は雲仙岳などの火山があり、多くの半島が突き出しているため、大規模な平野が少ないのが特徴です。そのため、傾斜地を有効に利用した農業が発達しました。特に温暖な気候条件は、ばれいしょ（じゃがいも）の二毛作（同じ土地で年に2回栽培すること）を可能にしており、地形的な不利を気候条件で補う形で特色ある農業が展開されています。
問10	答え 3 温暖な気候を活かしたさとうきびなどの工芸作物の栽培が盛んで、その産出額の割合が約40パーセントと非常に高い。	沖縄県の農業産出額の構成を他の県と比較すると、野菜や畜産よりも、さとうきびなどの「工芸作物」を含む項目の割合が突出して高いという特徴があります。これは、台風の被害を受けにくく高温多湿な環境に適した作物として、さとうきびが古くから地域経済を支えてきた背景があるためです。他の選択肢にある「稲（米）」や「近郊農業」は沖縄県の特徴には当てはまらず、シラス台地は鹿児島県を中心とした南九州の地形的特徴です。
問11	答え 1 火山地帯では地下深くに高温の蒸気や熱水が存在するため、これを取り出してタービンを回す発電方式が、再生可能エネルギーの一つとして活用されている。	地熱発電は、火山付近の地下にあるマグマの熱で温められた水蒸気を利用して発電する仕組みであり、二酸化炭素の排出が少ない再生可能エネルギーとして注目されています。阿蘇山のカルデラ内には多くの人々が住み、農業も行われているため「居住が制限されている」という説明は誤りです。また、シラス台地は養分が乏しく水持ちが悪いため、かつては農業に不向きな土地とされていました。北九州工業地帯の発展は、火山地質よりも筑豊炭田の石炭と中国大陸からの鉄鉱石輸送の利便性が主な要因です。
問12	答え 1 非常に水はけが良く、地表に水が溜まりにくい	シラス台地は過去の火山活動による火砕流などの噴出物が積み重なって形成されました。この土壌は粒子が粗く「水を通しやすい（水はけが良い）」という特性を持っています。そのため、常に水を張る必要がある水田稲作には向かず、古くからサツマイモや茶などの畑作、そして畜産を中心とした農業が発展してきました。
問13	答え 1 カルデラ	阿蘇山は、大規模な噴火によって地表が陥没してできた「カルデラ」を持つことで世界的に知られています。この地形は熊本県の象徴的な景観の一つであり、カルデラの内部には草原が広がり、人々の生活圏や農地も存在しています。